

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	国語・現代の国語	単位数	2単位
使用教科書 〃 副教材	高等学校 現代の国語（第一学習社） 思考の論理スイッチ1（浜島書店） アシスト常用漢字（数研出版）	対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組

科目の概要 と目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する
--------------	--

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
《オリエンテーション》	・学習の仕方と意義を理解する。
【評論】 「生きもの」として生きる 「水の東西」 他	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
【小説】 「羅生門」 「夢十夜」 他	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解する。 ・論理的に表現するための、主張と理由の関係性を理解する ・表現の仕方を工夫して書こうとしている。
【表現】 論理的な表現 話し方の工夫 他	・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・説得力を意識した表現の仕方について理解する。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手や場に応じた表現が選択できるようになる。
【論理分析】 具体と抽象 事実と意見	・文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する。 ・文章を分析的に読み、事実から情報を抽出し、意見を形成していく論理の展開について理解する ・事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する。
【情報の扱い方】 法律の改正に関わる文章	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	国語・言語文化	単位数	2単位
使用教科書 〃 副教材	高等学校 言語文化 (第一学習社) 言語文化学習課題集 (第一学習社) 古典の手引き (いいずな書店) 古典の手引き定着ノート (いいずな書店) よむナビ 古典1基礎編 (いいずな書店)	対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組

科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語(古典)の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができるようにする。
--------------	--

「単元」「学習内容」	到達度目標
【古文入門】 「児のそら寝」他	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや、人間描写の巧みさを知る。
【物語】 「伊勢物語」	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の代表的な物語を読み、古典に対する親しみを深める。 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。
【随筆】 「枕草子」「徒然草」	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。
【日記】 「土佐日記」	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。
【軍記物語】 「平家物語」	<ul style="list-style-type: none"> ・合戦を主題とした文学的作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。
【和歌】 「万葉集」「古今集」他	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞の仕方を理解し、和歌の特色を捉える。
【漢文入門】	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読について、基礎的な知識を身に付ける。 ・漢文と現代との関わりを知り、漢文を学ぶ意義を理解する。
【故事成語】 「漁夫の利」 「虎の威を借る狐」他	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを学ぶ。
【詩文】 「唐詩の世界」	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の表現や技法(押韻や対句)について習熟する。 ・漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。
【思想】 「論語」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について学び、孔子のものの見方や考え方を理解する。

年間指導計画（書式）

富山県立入善高等学校

教科・科目	地理歴史・地理総合		単位数	2 単位
使用教科書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		対象学年 学科・組	1 年普通科・農業科 1～5 組
使用副教材	高等学校新地理総合ノート（帝国書院）			
科目の概要と目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
単元	学習内容	達成度目標 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度		
第1部 地図でとらえる現代世界	第1章□ 地図と地理情報システム 第2章□ 結びつきを深める現代世界 1 節□ 現代世界の国家と領域 2 節□ グローバル化する世界	第1章 ①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。*球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 ・国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解し、国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 ・外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的スキルを養う。 第2章 ①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきについて理解している。 ②現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
第2部 国際理解と国際協力	第1章生活文化の多様性と国際理解 1 節□ 世界の地形と人々の生活 2 節□ 世界の気候と人々の生活 3 節□ 世界の言語・宗教と人々の生活 4 節□ 歴史的背景と人々の生活 5 節□ 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 2 節 地球環境問題 4 節 人口問題 5 節 食料問題	世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 第2章 ①世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。 ②世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章自然環境と防災 1 節日本の自然環境 2 節地震・津波と防災 3 節気象災害と防災 4 節自然災害への備え	第1章 ①我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	地理歴史・歴史総合		単位数	2単位
使用教科書	新選歴史総合（東京書籍）		対象学年	1年
使用副教材	要点整理 ゼミナール歴史総合（浜島書店）		学科・組	普通科・1～4組
科目の概要と目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章1節 歴史の扉	私たちの生活・地域と、日本や世界の歴史とのつながり	○身近な諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解する。		
第2章1節 近代化と私たち	近代化に伴う生活や社会の変容	○通商と産業の発展、市民社会の形成などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察する。		
第2章2節 結び付く世界と日本の開国	18世紀のアジア各地域間、アジア諸国と欧米諸国との関係とその変容	①アジア諸国相互ならびに欧米諸国との関係を多面的・多角的に考察・表現し、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ②産業革命の影響、中国・日本の開国の背景・影響などに着目して、工業化と世界市場の形成を理解する。		
第2章3節 国民国家と明治維新	近代の政治や国家、国際関係の仕組みの形成過程とその展開	①政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ②帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容を通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。		
第3章1節 国際秩序の変化や大衆化と私たち	大衆化が国際社会・国際秩序にもたらした影響	○国際関係の緊密化、米ソ両国の台頭、植民地の独立、大衆の地位向上、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。		
第3章2節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦が起こった原因・背景と生活・社会・国際秩序に与えた影響	①第一次世界大戦の性格と惨禍、各国の関係や国際協調体制の特徴を通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ②第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。		
第3章3節 経済危機と第二次世界大戦	第二次世界大戦が起こった原因・背景と生活・社会・国際秩序に与えた影響	①各国の世界恐慌への対応、国際協調体制の動揺の要因などを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 ②第二次世界大戦の性格、大戦下の社会状況、占領政策と国際情勢との関係等を考察し、大戦後の国際秩序と日本の国際社会復帰を理解する。		
第4章2節 冷戦と世界経済	冷戦対立と国際政治・経済の展開	○冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容を通して、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。		
第4章3節 世界秩序の変容と日本	グローバル化の進展と新たな課題への対応	①市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 ②冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。		

教科・科目	公民・ 公共	単位数	2 単位
使用教科書 副教材	高等学校 公共（第一学習社） 高等学校 公共ノート（第一学習社）	対象学年 学科・組	2 年 普通科
科目の概要 と目標	1 地域的特色と、日本及び世界との関わりを理解するとともに、調査や情報を効果的にまとめる技能を身に付けた生徒を育成する。 2 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動に取り組むことのできる生徒を育成する。 3 多面的、多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする生徒の態度を養う。		
単元	学習内容	到達度目標	
第1編 第1章 公共的な空間をつくる私たち I-①社会に生きる私たち I-②個人の尊厳と自主・自律 I-③多様性と共通性 I-④キャリア形成と自己実現 II-①伝統や文化とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。 公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学ぶ。 伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解する。 	
第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 生き方 I-①人間と社会のあり方についての見方・考え方 I-②実社会の事例から考える～環境保護 I-③実社会の事例から考える～生命倫理 II-①公共的な空間を形成するための考え方 II-②よりよく生きる行為者として活動するために	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 	
第3章 公共的な空間における基本的原理 I-①人間の尊厳と平等 I-②個人の尊重 I-③民主政治の基本的原理 I-④法の支配 I-⑤自由・権利と責任・義務 II-①世界のおもな政治体制 II-②日本国憲法に生きる基本的原理	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。 	
第2編 第1章 法的な主体となる私たち I-①法と規範 I-②法と基本的人権 II-①司法参加の意義 第2章 政治的な主体となる私たち I-選挙の意義と課題 I-政治参加と世論形成 II-内閣と行政の民主化 IV 地方自治 V-国家と国際法	<ul style="list-style-type: none"> 自立した主体として、よりよい社会の形成に参画するために現代社会に諸問題にどのように対処していくべきかを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 法の持つ機能について多角的にとらえる。 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 法により保障されている基本的人権について精神的・身体的・経済的な面から考察する。 民主政治における投票の持つ意味について考察する。 	

年間指導計画（書式）

教科・科目	数学・数学 I	単位数	3 単位
使用教科書	新編 数学 I（数研出版）	対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組
使用副教材	新課程 教科書傍用 3TRIAL 数学 I（数研出版） チャート式 新課程 解法と演習 数学 I（数研出版）		
科目の概要と目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
単元	学習内容	到達度目標	
第1章 式の計算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・単項式、次数、係数、多項式、項など、多項式についての用語を理解する。多項式の加法・減法、指数法則、整式の乗法、多項式の乗法公式、式の展開などの基本的な計算力を身につける。 ・展開公式との関係に着目し、公式を利用して因数分解ができるようになるとともに検算に展開を利用したり、適切な形に整式を整理したりすることによって、やや複雑な因数分解ができるようになる。 ・自然数、整数、有理数、実数の意味を理解し、区別ができるようになる。 ・平方根の意味・性質を理解し、根号を含む式の計算、分母の有理化ができるようになる。また、その発展として、対称式の値の計算に活用できるようになる。 ・1次方程式と対比しながら、1次不等式の意味や、式変形を適切に行うことができる。 ・不等号の意味を理解し数量の大小関係を不等式で表したり、不等式の性質をもとに1次不等式を解いたりすることができるようになる。 ・連立不等式の意味を理解し連立1次不等式を解いたり、その解を、数直線を用いて表示したりできるようになるとともに、身近な問題を1次不等式に帰着させて解くことができるようになる。 ・絶対値の意味を理解し、絶対値を含む式の計算ができるようになる。 	
第2章 集合と命題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の意味と表し方、要素と集合の関係や集合と集合の関係に関わる用語や記号を理解し、ベン図等を用いて表現・処理できるようになる。 ・集合の包含関係から、命題の真偽が判断できるようになり、必要条件、十分条件、必要十分条件などの定義や使い方を理解できるようになる。 ・命題の逆・裏・対偶の定義を理解し、それらの真偽を判断できるようになる。 ・対偶を利用した証明方法や背理法による証明法を学び、論理的な思考ができるようになる。 	
第3章 2次関数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸との位置関係 7. 2次不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念や基本的な用語を理解し、記号$y=f(x)$が使えるようになる。 ・2次関数とそのグラフについて、特徴や性質、用語を理解する。 ・平方完成を行うことで、与えられた2次関数のグラフを描くことができるようになる。 ・2次関数が最大値または最小値をもつことを理解し、グラフを利用して最大・最小を求められるようになる。 ・与えられた条件から、処理に適した式の形を用い、2次関数を定めることができるようになる。 ・因数分解や解の公式について理解し、それらを適切に活用して2次方程式を解くことができるようになる。 ・2次方程式の実数解の個数と判別式Dの符号との関係を理解し、解の判別に利用することができるようになる。 ・2次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求められるようになる。 ・2次関数のグラフとx軸との共有点の個数を判別式Dの符号から考察することができるようになる。 ・2次関数のグラフをもとに2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができるようになる。 ・2次の連立不等式の解法を理解し、身近な問題を2次不等式の問題に帰着させて解くことができるようになる。 	
第4章 図形と計量	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形における正接、正弦、余弦の意味を理解し、その値を求め、活用できるようになる。 ・三角比の相互関係を利用し、1つの三角比の値から残りの値を求めることができるようになる。 ・拡張された三角比を座標平面上に図示して考察するとともに、相互関係について理解を深め、それらを活用できるようになる。 ・正弦定理、余弦定理を理解し、既知の値から残りの値を求められるようになる。また、定理を用いて三角形が決定できることを理解する。 ・条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求めることができるようになる。 ・三角形の面積をもとに、多角形の面積について考察することができる。 また、その発展として、三角形の内接円の半径、円に内接する四角形の面積についても考察したり、三角比を空間図形の計量に活用したりできるようになる。 	
第5章 データの分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変数の関係 6. 仮説検定の考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布、ヒストグラムの意味を理解する。また、それらを作成し、目的に応じて資料を整理できるようになる。 ・各代表値の意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの分布の仕方により、適切でない代表値があることを理解している。 ・四分位数や箱ひげ図の意味を理解し、それらから、データの分布を比較することができるようになる。 ・分散、標準偏差の意味を理解し、それを求めることができる。 ・散布図を作成し、2つの変数の間の相関を考察することができる。 ・相関係数は散布図の特徴を数値化したものであることを理解し、それを求めることができるようになる。 ・仮説検定の考え方を理解し、日常生活に利用できる。 	

教科・科目		理科・物理基礎		単位数	2 単位
使用教科書		数研出版 『新編 物理基礎』		対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組
使用副教材		数研出版 『新編 物理基礎』 準拠サポートノート			
科目の概要と目標		日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
単元	学習内容	到達目標			
物理量の扱い方		物理量の表し方やデータの扱い方を理解する。			
□ 第 □ 編 □ 運 動 と エ ネ ル ギ ー	第1章 方運動	1. 速度	物体の速さと速度の違いを明確にする。さらに、等速度運動をグラフで示し、そこから得られる情報を理解させる。平均の速度と瞬間の速度の違いを明確にし、求められるようにする。相対速度の求め方を理解する。		
		2. 加速度	直線運動における加速度の定義を理解し、ベクトル量として扱うことを理解させる。等加速度直線運動における3つの式を理解し、それらを具体的に使うことが出来る。		
		3. 落体の運動	落体の運動は、等加速度直線運動であることに気づく。自由落下や鉛直投射等の式が書けるようにし、それを使える。また、水平投射や斜方投射は、水平方向と鉛直方向に分けて扱えることを理解する。		
	第2章 運動の 法則	1. 力とそのはたらき	力は、ベクトル量であることを理解する。身近な力を取り上げ、それらの大きさや向きについて理解する。また、弾性力についてはフックの法則を扱い、ばね定数の意味についても理解する。		
		2. 力のつりあい	力はベクトル量であることを認識させながら合成や分解ができることを理解する。また、物体にはたらく力が正しく見つけられるとともに力が釣り合っているとき、分解したときの値についてつりあいの式が立てられる。作用反作用の法則を理解し、つりあう2力の関係と作用反作用の2力の関係との違いが分かる。		
		3. 運動の法則	慣性の法則や運動方程式を扱い、力と運動との関係を実験を基に理解する。特に運動方程式については、具体例を用いて式の立て方を習得する。物体は落下するとき加速度を生じることから、運動方程式により、重力がはたらくことがわかること、および、重力の大きさが $m g$ [N] であることを理解する。		
		4. 摩擦を受ける運動	静止摩擦係数と最大摩擦係数の違いを認識でき、最大摩擦係数の大きさが静止摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。さらに、動摩擦係数の大きさについても動摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。		
		5. 液体や気体から受ける力	流体中の物体は圧力を受けることや、その大きさと単位について理解する。また、流体中にある物体には浮力がはたらくこと、および、その大きさについてアルキメデスの原理が成り立つことを理解する。空気中を落下する物体には、空気抵抗がはたらくことを理解する。演習実験等を用いながら、仕事の原理を理解する。また、単位時間にした仕事の仕事率であることも理解する。		
	第3章 仕事と エネルギー	1. 仕事	仕事の定義を確認しながら、その値は力と変位の内積で求められることを理解する。また、 $F-x$ 図の面積が仕事の大きさを表すことを理解する。演習実験等を用いながら、仕事の原理を理解する。また、単位時間にした仕事の仕事率であることも理解する。		
		2. 運動エネルギー	運動している物体が運動エネルギーを持っていることとその大きさを求めることが出来る。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係を運用できる。		
		3. 位置エネルギー	基準より高い所にある物体は、重力による位置エネルギーをもっていることを理解する。また、重力がした仕事より、その値を求めることが出来る。弾性力による位置エネルギーについては、その値の求め方とともに過程も理解する。		
		4. 力学的エネルギーの保存	自由落下を例にとり、仕事と運動エネルギーの関係式を用いて、力学的エネルギー保存則が成り立っていることを理解する。その際、保存力だけが仕事をすることを理解する。逆に、物体に非保存力が仕事をする際、その仕事だけ力学的エネルギーが変化することを理解する。		
第2編 熱	第1章 熱と エネルギー	1. 熱と物質の状態	ブラウン運動の観察を通じて、熱運動について理解する。温度は、原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、熱運動が停止するときの温度を0とする絶対温度について理解する。熱の移動がエネルギーの移動であることを説明し、熱がエネルギーの一形態であることを理解する。熱容量や比熱の定義を理解させようとして、温度を ΔT [K] 変化させるのに必要な熱量を、熱容量や比熱を用いて表すことができる。また、外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解する。物質には、固体、液体、気体の3つの状態が存在し、いずれの状態でも熱運動があることを理解する。また、多くの場合、温度が上がると物体の体積が大きくなることを理解する。		
		2. 熱と仕事	身近な例を挙げ、熱がエネルギーの一形態であることを理解する。気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多くなることを理解する。また、熱力学第一法則を理解する。自然界のエネルギーの変換では不可逆変化が伴うことを示し、それに関連して熱機関の効率について理解する。		
第3編 波	第1章 波の 性質	第1節 波と媒質の運動	波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解する。波を表す要素は振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さであることを理解する。また、位相について扱い、同位相、逆位相についても理解する。横波と縦波の違いにも触れる。		
		第2節 波の 重ねあわせの原理	波の重ねあわせの原理について理解する。定在波ができる仕組みや定在波の媒質の変位が場所によって振幅が異なることを理解する。また、自由端反射と固定端反射の違いを理解する。		
第4編 電気	第1章 電気の 性質	第1節 電気の性質	音波は縦波であることを理解する。空気中を伝わる音の速さは、温度が高いほど音の速さは速くなる。音の高さ・大きさについては、音波の波形図を用いて定性的に説明できる。うなりの現象を実験によって観察させ、その理由を理解する。		
		第2節 弦の 振動と共鳴	弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解する。気柱の固有振動は閉端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握する。振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる(共振・共鳴)ことを理解する。		
第5編 社会物理学と	第1章 エネルギーの 利用	1. 電気の性質	物体が帯電するしくみでは、帯電は電子の過不足から生じ、電気現象は電子が主役であることがわかる。		
		2. 電流と電気抵抗	電流の向きと大きさについて理解する。また、電圧・電流・電気抵抗の間には、オームの法則が成り立つこと、抵抗率についても理解する。直列・並列接続の特徴を理解する。		
第6編 電気	第2章 電流と 磁場	3. 電気とエネルギー	導体の両端に電圧を加えるときの導体内にある自由電子の様子について理解する。運動エネルギーが陽イオンに与えられ、陽イオンの熱運動が激しくなって導体の温度が上がることを理解する。またその際に発生する熱をジュール熱とよぶこと、および、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解する。電流がする仕事(電力量) W が Ivt [J] に等しいことを理解する。		
		1. 電流と磁場	磁石の性質を示し、磁力線の説明へと進める。直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場の向きについて理解する。電流が磁場から受ける力について説明し、直流モーターのしくみを理解させる。コイル内に磁石を出し入れさせたときに、検流計の針が振れる電磁誘導の現象を理解する。		
第7編 電気	第3章 交流と 電磁波	2. 交流と電磁波	交流の電圧は時間的に変化する、その電圧の波形には最大値や0となる瞬間があることを理解する。交流発電機のしくみを理解する。変圧器は交流の電圧を変えていること、および、一次コイルと二次コイルの交流電圧の比は、一次コイルと二次コイルの巻数の比に等しいことを理解する。電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、 γ 線が含まれ、波の性質をもってエネルギーには、力学的エネルギーや熱エネルギー、電気エネルギーのほかにもいろいろな種類のエネルギーがある。ここでは光エネルギー、化学エネルギー、核エネルギーとは何か、またそれらのエネルギーの具体的な利用についてわかる。また、あらゆる自然現象におけるエネルギーの変換では、それに関係した全てのエネルギーの和は一定に保たれていることを理解する。		
		1. エネルギーの移り変わり	エネルギー資源には一次エネルギーと二次エネルギーがあること、そして二次エネルギーの一種である電気エネルギーを得るための発電の方法について、そのしくみと特徴がわかる。特に、原子力発電を理解するために必要な知識である原子核、同位体、核反応、原子炉のしくみなどについてわかる。		
第8編 社会物理学と	第4章 物理学が 拓く世界	2. エネルギー資源と発電	スポーツ、防災、自動車のような身近な技術を題材に、「物理基礎」の学習内容との関連がわかる。また、職業に就いている人の声を紹介し、将来の進路について考える。		
		物理学が拓く世界	スポーツ、防災、自動車のような身近な技術を題材に、「物理基礎」の学習内容との関連がわかる。また、職業に就いている人の声を紹介し、将来の進路について考える。		

年間指導計画（書式）

教科・科目	理科・化学基礎		単位数	2単位
使用教科書	化学基礎（実教出版）		対象学年 学科・組	1年 農業科・5組 2年 普通科・1～4組
使用副教材	高校化学基礎カラーノート（実教出版）（1年5組・2年1, 2組） アクセスノート 化学基礎（実教出版）（2年3, 4組）			
科目の概要と目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
単元	学習内容	到達度目標		
序章 物質と化学	<ul style="list-style-type: none"> 物質とはなにか 「物質」を分類する 「変化」を調べる 性質の違いで物質を見分ける 物質の変化を観察する 	身のまわりの物質に着目し、我々の生活が物質に支えられていることを理解する。物質について調べることにより、さまざまな物質も特徴によって分類することができることを理解する。中学で行った物質に関する実験を振り返り、これから学ぶ化学が物質に関する学問であることを理解する。		
1章 物質の構成	1節 物質の探究 <ol style="list-style-type: none"> 物質の分類と性質 物質と元素 物質の三態と熱運動 2節 物質の構成粒子 <ol style="list-style-type: none"> 原子の構造 イオンの生成 元素の周期表 	混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることを理解する。また、混合物から目的の物質を分離するには、物質の性質にあわせた方法があることを知る。元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。粒子の熱運動と温度および物質の三態変化との関係について理解する。原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。同位体の定義とその性質を理解する。陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。		
2章 物質と化学結合	1節 イオン結合 <ol style="list-style-type: none"> イオン結合とイオン結晶 イオン結合からなる物質 2節 共有結合と分子間力 <ol style="list-style-type: none"> 共有結合と分子 分子間力と分子結晶 共有結合からなる物質 3節 金属結合 <ol style="list-style-type: none"> 金属結合と金属結晶 金属 4節 化学結合と物質 <ol style="list-style-type: none"> 結晶の分類 化学結合と身のまわりの物質 	陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。		
3章 物質の変化	1節 物質質量と化学反応式 <ol style="list-style-type: none"> 原子量と分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式 2節 酸と塩基 <ol style="list-style-type: none"> 酸と塩基 酸と塩基の分類 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 3節 酸化還元反応 <ol style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元 酸化還元反応の応用 	非常に小さな質量の原子や分子の質量は、 12C を基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。原子量や分子量などに単位グラムをつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が 6.0×10^{23} 個で、この粒子の集団を 1 mol ということを知る。溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。化学反応式の係数比は、物質量比（気体の場合には、さらに体積比）を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。酸と塩基が反応するとたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。 H^+ と OH^- とが $1:1$ で反応することを知り、また、中和滴定の計算を理解する。酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。とくに、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元との関係を理解する。また、酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。日常生活や社会との関わりの例として、電池や金属の製錬を理解する。		
終章 科学技術と化学	「衣食住」	化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。		

年間指導計画（書式）

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2単位
使用教科書	高等学校 生物基礎（第一学習社）	対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組
使用副教材	クリア生物基礎（第一学習社）		
科目の概要と目標	図や写真にとどまらず、映像や音声など様々なツールを通じて、自然現象や生理現象への理解を深めるとともに、自らの体内で起こっている現象と結びつけて物事を理解し、科学への見識を深める。		
単元	学習内容	到達度目標	
第1篇 生物の特徴	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 2. 生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 脊椎動物の系統樹から、生物に共通してみられる特徴は、進化の過程で共通祖先から受け継がれてきたものであると考察できる。 原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また、真核細胞において、核・細胞膜・細胞質基質・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁の機能の概要を理解する。 光合成は、光エネルギーによってATPをつくり、このエネルギーによって有機物を合成する過程であることを理解する。 呼吸は、酵素の働きによって有機物が段階的に分解されてエネルギーが取り出され、ATPがつくられる過程であることを理解する。 酵素の基本的な特徴について理解する。 	
	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 2. 遺伝情報とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とDNAと染色体の関係について理解する。 DNAの半保存的複製を、分子モデルを用いて再現できる。 多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖していること、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。 生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ（転写）、これがアミノ酸配列に置き換えられる（翻訳）という流れを理解する。 	
第2編 人のからだの調節	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 2. 免疫	<ul style="list-style-type: none"> 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。 自然免疫のしくみを理解する。 抗体の特徴について理解する。 リンパ球による抗原認識、免疫寛容のしくみを理解する。 アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法の特徴を理解する。また、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。 	
第3篇 生物の多様性と生態系	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム	<ul style="list-style-type: none"> 植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 植生は不変ではなく、遷移していることを理解する。 湿性遷移、二次遷移について理解する。 現存するバイオームと、その地域における気温や降水量の分布を対応させた資料から、環境条件によって、遷移の結果として森林や草原、荒原など多様なバイオームがみられることを理解する。 日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解し、各バイオームの特徴的な植物種を理解する。 	
	第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の構成について理解する。 キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。 食物連鎖を通じて間接的に他の生物に影響を与えることがあることを理解する。 生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 自然に対する人間の働きかけの縮小が里山などの生態系へ与える影響について理解する。 絶滅危惧種と人間活動との関係について理解する。 人間は、生態系からさまざまな恩恵を受けており、それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを理解する。 	

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・保健		単位数	単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）		対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）			
科目の概要と目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
現代社会と健康	<p>健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について理解できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解できる。 ・生活習慣病の種類と要因について理解できる。 ・がんの種類や原因について理解できる。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解できる。 ・健康と運動の関係について理解できる。 ・食事と健康の関係について理解できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解できる。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解できる。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解できる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解できる。 ・精神疾患の発病の要因とおもな症状について理解できる。 ・精神疾患を予防する方法について理解できる。 ・精神疾患の治療について理解できる。 ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて理解できる。 ・感染症の予防対策の3原則について理解できる。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解できる。 ・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解できる。 ・社会環境の健康への影響について理解できる。 		
安全な社会生活	<p>事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の実態と被害の実態について理解できる。 ・安全のために必要な個人の行動について理解できる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解できる。 ・応急手当の意義について理解できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解できる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について理解できる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・保健		単位数	単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）		対象学年 学科・組	2年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）			
科目の概要と目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
生涯を通じる健康	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康の関連について理解できる。 ・思春期における体の変化について理解できる。 ・性意識の男女差について理解できる。 ・妊娠・出産の過程における健康問題について理解できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。 ・心身の発達と結婚生活の関係について理解できる。 ・加齢にともなう心身の変化について理解できる。 ・働くことの意義と健康のかかわりについて理解できる。 ・労働災害の種類とその原因について理解できる。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解できる。 		
健康を支える環境づくり	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因と健康への影響について理解できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響について理解できる。 ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について理解できる。 ・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解できる。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解できる。 ・保健行政の役割について理解できる。 ・わが国における医療保険のしくみについて理解できる。 ・医薬品の正しい使用法について理解できる。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について理解できる。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて理解できる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・体育		単位数	単位
使用教科書	なし		対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	なし			
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体づくり運動		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を通し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動の意義や原則を理解し、健康の保持増進や体力を向上させることができる。 		
器械運動	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・体力や技能に応じた回転系や技巧系の基本的な技ができる楽しさや喜びを味わうことができる。 		
陸上競技	短距離・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの種目の特性を理解し、運動の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができる。 		
球技	サッカー バスケットボール ソフトテニス バドミントン 卓球 パレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術を身に付け、サッカーの特性を理解し、ボール空間を作り出す動きを活用したゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、バスケットボールの特性を理解し、空間を作り出す動きを活用したゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、狙った場所にボールを打ち返ししながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本的な技術を身に付け、各種フライトを使い分けて攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、ボールに変化をかけるなどの工夫をしながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、フォーメーションを意識し、チームで協力して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・キャッチボールやバッティングの基本技術を身に付け、チームで協力して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 		
体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツの発祥と発展」について理解することができる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・体育		単位数	単位
使用教科書	なし		対象学年 学科・組	2年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	なし			
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体づくり運動	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を通し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自分や仲間の心身の状態を感じたりすると共に交流する楽しさを味わいながら自己の健康保持増進や体力を向上させるためのことができる。 		
陸上競技	短距離・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を設定し、その解決方法を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。 		
球技・武道	サッカー バスケットボール ソフトテニス バドミントン 卓球 バレーボール ソフトボール 柔道 ダンス 現代的なリズムダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人の課題を解決しながら、パートナーと連携した攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人の課題を解決しながら、シングルスやダブルスの攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人の課題を解決しながら、シングルスやダブルスの攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・武道の伝統的な考え方を理解し、基本動作と基本技術を身に付け、攻防を展開できるようになる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 		
体育理論	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動・スポーツの学び方」について理解することができる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・体育		単位数	単位
使用教科書	なし		対象学年 学科・組	3年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	なし			
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体づくり運動	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を通し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活での課題を発見し、合理的な解決ができるような計画を立てて、継続的に運動に取り組むことができる。 		
陸上競技	短距離・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を設定し、その解決方法を発見し、合理的な解決ができるような計画を立てて、記録を高めることができる。 		
球技・武道	サッカー バスケットボール ソフトテニス バドミントン 卓球 バレーボール ソフトボール 柔道 ダンス 現代的なリズムダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、ダブルスの作戦や戦術を工夫しながらパートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、シングルスやダブルスの作戦や戦術を工夫しながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、シングルスやダブルスの作戦や戦術を工夫しながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高める中で得意技を身に付け、それを用いての攻防ができるようになる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 		
体育理論	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かなスポーツライフの設計」について理解することができる。 		

年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽 I		単位数	単位
使用教科書	高校生音楽1 (教育芸術社)		対象学年 学科・組	1年 普通科1～4組
使用副教材				
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
単元	学習内容	到達度目標		
(表現・歌唱) ・「入善高等学校校歌」 ・「翼をください」 ・「歌の翼に」 ・「この道」 ・合唱 ・「カーロ ミオ ベン」 ・「野ばら」 他	・歌唱の基本を学ぶ。 ・声を出すことに慣れる。 ・発声の図を用いつつ、力みのない歌唱法を身に付ける	・歌うときの基本的な姿勢、呼吸、声の響かせ方を身に付ける。 ・曲にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。 ・歌詞の内容や曲の背景を理解し、詩情に合った歌唱表現を工夫する。		
(表現・器楽) ・リズムアンサンブル ・『クラッピングカルテット第1番』 ・様々な楽器を使ったアンサンブル 他	・基本的な音価の数え方を学ぶ。 ・反復、変化、対照などの手法を活用して、リズムパターンを即興で変化させて演奏する。 ・色々な楽器でのアンサンブルを実践する。	・リズム奏に用いる楽器の組み合わせを工夫して豊かな音色で表現する。 ・曲にふさわしい奏法や身体の使い方を身に付ける。 ・他者との調和を意識して、その表現を工夫する。		
(表現・創作) ・創作 ・《きらきら星》の旋律で音楽をつくろう 他	・既存の作品の断片を用い、創作に触れる。 ・ニュアンスに合わせて音楽表現をする。	・自分のイメージに合わせて音楽をつくる。 ・創作表現に関わる知識や技能を身に付け、表現を創意工夫する。		
(鑑賞) ・ベートーヴェン：交響曲第9番 第4楽章 ・ガムラン ランチャラン マニャルセウ ・日本の伝統的な音楽 ・ミュージカル ・オペラ 他	・ワークシートを用いつつ、様々な音楽作品への意見を整理する。	・音楽のよさや美しさを味わって聴き、曲に対する評価とその根拠について考える。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について学ぶ。 ・音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める。		

年間指導計画

教科・科目	芸術・美術 I	単位数	2 単位
使用教科書	美術1 (光村図書)	対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組
使用副教材			
科目の概要と目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		
単元	学習内容	到達度目標	
【鑑賞(鑑賞中心)】 美術 I オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 美術の意義について考える。 1年間の題材について知る。 「美術の体操」に取り組む(4コマ漫画作成・鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> これからの社会に求められる想像力と芸術表現の関わりについて、理解を深めている。 自分の日常的な生活などから主題を生成し、4コマ漫画の構成や造形について考え、創造的な表現の構想を練っている。 「美術の体操」などの発想を引き出す活動に主体的に取り組んでいる。 	
【鑑賞(表現中心)】 教科書作品模写	<ul style="list-style-type: none"> 教科書作品ベスト5を決める。 教科書作品を模写する。 模写作品を鑑賞し合い、作者の意図や心情について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書作品の構図や配色、技法などを観察し、自分の技術を駆使し正確に再現しようとしている。 模写を通して作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の工夫などについて見方や感じ方を深め、自分の言葉で伝えようとしている。 教科書作品のよさや面白さを捉えて再現する造形活動に、粘り強く取り組んでいる。 	
【鑑賞(鑑賞中心)】 日本人現代アート作家鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 日本人現代アート作家の経歴と作品を知る。 作家の関連動画を視聴する。 作家についての自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代アート作品の造形的なよさや面白さを感じ取り、社会や美術界の動向と作家の表現意図との関係性、創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 現代アート作品から作家の表現意図を考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【絵画・彫刻(表現中心)】 エッチング(銅版画) 想像した世界を描く	<ul style="list-style-type: none"> 夢や現実にはない不思議を想像し、主題を生成する。 主題をもとに、形や線・点、構図などの構想を練る。 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 夢や想像、自分を見つめて感じ取ったことなどから主題を生成し、形や構図、イメージを組み合わせるなどの創造的な表現の構想を練っている。 主題に応じて形や線・点、構図などの表現を工夫し、創造的に表している。 夢や想像、自分を見つめて感じ取ったことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【映像メディア(表現中心)】 ピンホールカメラで撮影しよう	<ul style="list-style-type: none"> 様々な写真作品を鑑賞し、主題を持って撮影することについて考える。 ピンホールカメラの特性を踏まえ主題を生成する。 主題をもとに、構図や光などの構想を練り、撮影する。 現像処理を行い、写真(ネガ)作品を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色、光などがもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、様々な主題で撮影された写真作品を、全体のイメージや作風で捉えている。 身近な対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことをもとに主題を生成し、ピンホールカメラの特性、光や構図、ポーズなどの視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 身近な対象を見つめ、表情や動き、背景などについて感じたことや考えたことをもとに写真に表現する創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【デザイン(鑑賞中心)】 色彩	<ul style="list-style-type: none"> 「見る」仕組みについて知る。 色の3原色、加法混色・減法混色 錯視・色彩心理 配色について <p>[演習]</p> <p>①12色相環 ②明度・彩度対比</p>	<ul style="list-style-type: none"> 視覚の原理や色彩心理などが生活に与える影響について理解を深め、それらをもとに色彩の演習に主体的に取り組んでいる。 色の3属性について理解を深め、色相環などの色づくり演習を合理的に進めることができる。 	
【デザイン(表現中心)】 オリジナルCDジャケットデザイン	<ul style="list-style-type: none"> デザインとは何か考える。 好きなアーティストの歌詞や曲調をもとに構図・配色・画材などの構想を練る。 画材や表現方法を工夫して制作する。 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や配色、画材などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、ジャケットデザインを、全体のイメージや作風などで捉え理解している。 好きなアーティストの歌詞や曲調などから主題を生成し、構図や配色、CDジャケットの表・裏面の関係性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 アーティストが曲に込めた想いについて考え、構図や配色、画材を工夫してCDジャケットをデザインする創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【絵画・彫刻(表現中心)】 油彩画で自己を表す	<ul style="list-style-type: none"> 自分を見つめて感じ取ったことから主題を生成する。 主題をもとに構想を練り、油彩画の特性を生かした表現方法を工夫し、制作する。 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、構図・配色、単純化や省略・強調などを考え、創造的な表現の構想を練っている。 表現意図に応じて画材や用具・技法を選択し、その特性を生かすとともに、表現方法を工夫し、主題を追究して創造的に表している。 自分を見つめて感じ取ったことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【鑑賞(鑑賞中心)】 近隣美術館での企画展鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員から美術館が地域社会に果たす役割や展覧会の主旨を聞き、アートへの視野を広げる。 感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心をもち、作家や作品の見方や感じ方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展作品の造形的なよさや面白さを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 企画展作品から作家の表現意図について考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	

年間指導計画

教科・科目	芸術・書道 I		単位数	2 単位
使用教科書	書 I (教育図書) 書 I プライマリーブック (教育図書)		対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組
使用副教材				
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法・形式・多様性を理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づいた表現の技能を身につける。 ・伝統・文化を通して書の美を感受し、価値を考え、意図に基づいた表現が工夫できる。 ・主体的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好し、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。 			
単元	学習内容	到達度目標		
○書写から書道への発展	<ul style="list-style-type: none"> ・文房四宝に対する理解 ・基本的な姿勢 ・生活の中の書 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科書写と芸術科書道の違いや目指すところを理解する。 ・用具の使用法、手入れ法を知り、大切に使えるようになる。 ・筆・鉛筆の持ち方、構え方、姿勢を身につける。 ・書の伝統と文化を感じながら学習し、身の周りの『書』に気付き、「生活の中に生きる書」への関心を高める。 		
○楷書の古典の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> ①鄭義下碑 ②牛楓造像記 ③孔子廟堂碑 ④九成宮醴泉銘 ⑤雁塔聖教序 ⑥顔氏家廟碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・書体の変遷について学び、楷書の成立を理解する。 ・古典を臨書し、いろいろな書風があることを知り、表現できるようになる。 ・筆の弾力、毛のねじれ、毛先の開閉などの特性を知り、意図に応じて適切に工夫し表現ができるようになる。 		
○行書の古典の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> ①蘭亭叙 ②争座位稿 ③風信帖 	<ul style="list-style-type: none"> ・点画の連続する行書の特徴を理解する。 ・古典の表現の多様性を感じ取ることができる。 ・筆脈、抑揚、空間の大切さを学び、生かすことができるようになる。 		
○漢字作品の創作	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字一字による創作 ・漢字二字による創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習を生かし、個性もプラスして作品を創作できるようになる。 ・学習したことを生活の中に生かし、表現する楽しみを知る。 ・「感情を書で表現する」ための構想を立て、墨の濃淡や潤渴、筆づかいを意図に応じて工夫できる。 ・創作作品を鑑賞し、作者の意図と表現の工夫を感知できる。 		
○仮名の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の基本 ・平仮名单体・いろは歌 ・連綿の方法 ・「高野切」の臨書 ・短歌のちらし書き 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の用具や用語を理解し基本用筆を習得する。 ・平仮名の字源を知り、平仮名や変体仮名を理解する。 ・連綿の基本的法則を知り習得する。 ・単体、連綿を組み合わせ、空間の美しさも考慮した短冊・色紙作品が書けるようになる。 		
○漢字仮名交じり文の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・調和の方法 ・作品の製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名を調和させる方法を考え、表現できるようになる。 ・書きたい文字や言葉を、感情豊かに表現を工夫した作品が書けるようになる。 		

教科・科目	外国語・英語コミュニケーション I	単位数	3 単位
使用教科書 副教材	Big Dipper English Communication 1 (開隆堂) Big Dipper English Communication ベーシックノート (開隆堂)	対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組

科目の概要 と目標	<ol style="list-style-type: none"> 積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとすることができる。 聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解することができる。 話したり書いたりして，情報や考えなどを適切に伝えることができる。 言葉の背景にある文化について理解することができる。
--------------	---

単元・学習内容	到達度目標
Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast	<ul style="list-style-type: none"> 朝食の大切さ、理想的な朝食を知る。 【文法】 現在形・過去形・未来形、S+V・S+V+C・S+V+O 現在完了形、現在進行形、命令文
Lesson 2 A Mascot with a Mission	<ul style="list-style-type: none"> 町おこしのキャラクターの役割を理解する。 【文法】 S+V S+V+O 不定詞 動名詞
Lesson 3 Two Kinds of Leadership	<ul style="list-style-type: none"> 2つのタイプのリーダーシップについて理解する。 【文法】 関係代名詞 who which that S+V+O+O S+V+O+C
Lesson 4 Older Sports and New Sports	<ul style="list-style-type: none"> 様々な新旧のスポーツについて読んだり、話したりできる。 【文法】 現在完了、S+V+O(=that 節)、過去完了
Lesson 5 AI Meets the Arts	<ul style="list-style-type: none"> 芸術の世界にまで進出する人工知能について考えを伝え合える。 【文法】 原級 比較級 最上級
Lesson 6 What is Happiness?	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の「幸福度」の違いについてデータを英語で読み取れる。 【文法】 過去完了 関係副詞 where when
Lesson 7 The Maldives : A Dream of Destination	<ul style="list-style-type: none"> 人気の観光地が抱える問題を通して環境問題について考える。 【文法】 SVOC (知覚動詞・使役動詞・原形不定詞)
Lesson 8 Kazu Hiro:In Pursuit of a Dream	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで将来の夢や進路について考えを整理し伝える。 【文法】 関係副詞 how why 関係代名詞 what 強調構文
Lesson 9 From Recycle to Upcycle	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの再利用の新しい概念について学び理解を深めることができる。 【文法】 分詞構文 現在完了進行形
Lesson 10 Diversity at Japanese Companies	<ul style="list-style-type: none"> 日本社会における雇用の多様性 ワークライフバランスを考える。 【文法】 仮定法過去 過去の習慣の助動詞 受け身の助動詞

年間指導計画

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位数	2単位
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 家基701）	対象学年 学科・組	2年 普通科 1・2・3・4組
使用副教材	最新生活ハンドブック 資料&成分表（第一学習社） とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会）		
科目の概要と目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p>		
単元	学習内容	到達度目標	
第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	<ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、ライフステージの特徴と課題を理解する。 生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。 高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	

年間指導計画

教科・科目	情報・情報 I	単位数	2 単位
使用教科書	新編情報 I (東京書籍)	対象学年	1 年
使用副教材	新編情報 I 資料ノート (東京書籍)	学科・組	普通科・1～4 組
科目の概要と目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
単元	学習内容	到達度目標	
1 情報とメディアの特性 2 問題解決の流れ 3 発想法	情報の本質とメディアの特性の理解、問題解決手順の習得、情報技術の活用方法の習得。	メディアの利点と欠点を判断できる能力の獲得、実践的な問題に対処する能力の養成、情報技術を問題解決に活用できる能力の身につける。	
4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つかない傷つけないために 7 著作権	情報モラルの重要性と個人情報保護の学習、個人情報の流出メカニズムの理解、SNS 上での安全な行動方法の学習。	情報モラルを実践し、個人情報保護の重要性を理解する、個人情報流出のメカニズムを理解し、安全な情報発信行動が取れる能力を養成する。	
文書処理ソフトウェアの操作 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ	文書処理ソフトの操作方法の習得、情報デザインの基礎理解、効果的な文書作成方法の習得。	文書処理ソフトを適切に操作し、情報を効果的に表現する能力を身につける、情報デザインの目的を理解し、効果的な文書作成ができる。	
8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ 11 コミュニケーション手段の変化 12 ネットコミュニケーションの特性	最新の情報技術の動向の把握、情報化の社会的影響の理解、適切なコミュニケーション手段の選択方法の習得。	最新の技術動向を把握し、情報化の影響や社会的課題を理解する、適切なコミュニケーション手段を選択し、情報伝達能力を向上させる。	
表計算ソフトウェアの操作	表計算ソフトウェアの基本操作や数式・関数の利用について学ぶ。	基本操作や数式・関数の利用方法を理解し、データの編集や加工ができる。	
36 データの形式 37 データベースの活用 38 さまざまなデータモデル 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの利用	データの形式やモデル、データベース管理システムの必要性の理解。	データの異なる形式やデータベースの活用方法を理解し、データベース管理の必要性を認識する。	
13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現	デジタルデータの特性、コンピュータの基本構成。	デジタルデータの特性理解、コンピュータの基本構成の理解。	
31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバとクライアント	インターネットの構成要素、情報セキュリティの基本、プログラムの基本構成。	インターネット構成要素の理解、情報セキュリティの基本理解、プログラム作成能力の獲得。	
34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み 23 演算の仕組みとコンピュータの限界	WWW の理解、電子メールの仕組み、コンピュータの基本構成。	WWW の仕組み理解、電子メールの送受信手順理解、コンピュータ基本構成理解。	
24 アルゴリズムの表現 25 プログラムの基本構造 1 26 プログラムの基本構造 2	アルゴリズムの表現方法、シミュレーションの活用、プログラム作成の基本構造。	アルゴリズム表現能力の獲得、シミュレーション活用能力の獲得、プログラム作成能力の向上。	
29 モデル化とシミュレーション 30 シミュレーションの活用	モデル化とシミュレーション、プログラムの制御構造、コンピュータの演算方法。	モデル化とシミュレーション能力の獲得、プログラム制御構造理解、コンピュータ演算方法理解。	